あとがき

中島　皇
フィールド科学教育研究センター　社会連携委員長

今回の時計台対話集会のプログラムは二〇〇七年に退官された田中・竹内両教授と天野礼子さんによる企画案を、社会連携委員会が受けて内容を検討し、昆虫をキーワードに「森里海連環学」の展開を考えたものでした。

森里海連環の発想は、当たり前のことが当たり前になされていれば（言い換えると自然のサイクルで回っていれば）起こらなかったことが、当たり前でなくなった為に起こっていることが数多くあるのではないかと多くの人々が感じていることにも基づいています。そして、それは言うまでもなく人間を中心とした「環境」の問題です。一方、昆虫は人類よりもはるかに長い進化の歴史を持ち、彼らにとっての「環境」に適応して現在も陸上を人類と二分する勢いで、大いに繁栄しています。その彼らに教わることことがあるのではないかとの考えから副題がつけられました。ただ、森、里（川）は昆虫の天国ですが、海、特に大洋に昆虫はほとんどいないそうです。よく考えれば、人間もそうでした。

講演では昆虫・環境に関する話が、いろいろな角度から判りやすく紹介されました。アンケートの回収率は五十四％と余り良くなかったのですが、非常に良かった三十七％、良かった五十三％で、及第点は頂けたと安堵しています。全国からの参加があるとともに、次世代を担う若者の姿を多く見かけました。これらは大きな希望です。また、「虫は人間のように地球温暖化に対して、政治的な思惑が入り込まないので、正直に事実を反映していることがよくわかります。」「経済優先の社会で、自然を正常な形で残すことがいかに難しいか痛感しています。」「こういう講演会では最後の会場との討論会がすっとばされたりするのですが、三十分以上たっぷりあって有意義な内容だったと思います。」「このような大切な講演が何故各家庭へ響かないのでしょう。情報と経済にまよわせられて私達自身が考えられるような環境が望ましく思います。」など、我々が進むべき道を教えてくれるような数多くの貴重なご意見を頂きました。

最後になりましたが、講演頂いた方々、特別出演の「ムラタセイサク君」及び（株）村田製作所、協賛団体・企業、後援を頂いた京都府、京都市に心から感謝致します。フィールド研としては、今後ともこのような対話集会を続けていくことを一つの大きな使命と認識し、「森里海連環学」のしっかりとした「根」として育てて行こうと思っています。

第4回時計台対話集会　講演録　平成20年8月1日　第1刷発行

編集・発行●京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502　京都市左京区北白川追分町　TEL 075-753-6416

編集協力●サイファーアソシエーツ株式会社